

# 「震災～戦後復興期の藤沢」関連年表 (1923～1955年)

が付いている部分は一般事項を示す。

## 藤沢と神奈川の動き

### 1923年(大正12年)

午前11時58分、関東大震災。被害状況、藤沢地区（現在の藤沢市域）の倒壊家屋数4000戸（世帯総数の五割強）当時の藤沢町の被害戸数約2400戸（世帯数の七割）、死者160人、重軽傷者669人（9.1）

**関東大震災による全被害は62,608戸全焼、9,800戸全壊、死者21,384名（9.1）**

藤沢本町に憲兵本部が設置され、憲兵など40余人配置（9.2）

県下に戒厳令施行（9.3）

甲府歩兵第四九連隊の軍隊、看護婦、電信第二連隊、工兵第一五大隊が藤沢地区に到着、駐屯（9.6）

関東大震災により破壊された東海道線の区間のうち品川・藤沢間が復旧・開通（9.10）

日本赤十字社県支部が、出張救護所を藤沢駅前桃華亭に設置、救護事務開始（20日頃、郡役所構内に移転）（10.1）

東海道線全線が復旧する（10.28）

藤沢町に駐屯の軍隊が引き上げる（11）

**大震災の被災に対して1000万円下賜される（12.23）**

下賜についての藤沢町の配分は1984円、県立湘南中学校で伝達式が挙行（12）

### 1924年(大正13年)

午前5時50分、相模地震発生、藤沢北部で大被害（1.15）

遊行寺再建のため、管長が募金に献身（2）

辻堂郵便局、辻堂駅西通りに新築移転（6.28）

金子角之助、藤沢町長に四選される（6）

清野長太郎、県知事となる（6.24）

**東京復興にあたる復興局員の収賄発覚、鉄道省にも波及（復興局疑獄事件）（8.20）**

大震災の死者供養、海施餓鬼が鵜沼海岸で行われる（8）

湯河原駅開業（9.1）

藤沢駅舎の復興・新築完成、祝賀会開催（9.17）

関東銀行と同系列の関東貯蓄銀行が2週間の休業を発表（11.25）

関東銀行休業のため、藤沢町長主催により協議会が開催され、湘南財界擁護会が組織される（12.2）

湘南財界擁護会が県知事、大蔵省に対して関東銀行救済を陳情

関東銀行さらに2週間の休業延長（12.9）

### 1925年(大正14年)

葉山町政施行（1.1）

町立藤沢実科高等女学校が創立する（2.6）

藤沢信用組合設立。神奈川県農工銀行藤沢支店が藤沢町大鋸に設置される（2）

**東京放送局がラジオの試験放送を開始する（3.1）**

**治安維持法が公布される（4.22）**

関東銀行の整理案完成（3）

藤沢に百貨店稲元屋誕生（6.5）

藤沢郵便局が落成する（6）

高座郡役所開庁式（8.6）

新築落成の藤沢郵便局開業式（8.11）

**東大が新加盟して、六大学野球リーグ戦が始まる（9.20）**

教諭排斥のため、藤沢中学校で同盟罷業（12.1）

大竹斉三郎、第13代小出村長に就任（12.9）

東海道線東京国府津間の電化が完成する（12.13）

関東興信銀行設立、関東銀行も開業（12.25）

藤沢と神奈川の動き

**東京、大阪の相撲が合同して、大日本相撲協会が設立される(12.28)**

1926年(大正15年)

村立御所見実科高等女学校創立(3.31)  
震災復興の完了により、金子角之助町長が救援活動関係者60余人に感謝状を贈る(5)  
江の島水族館が開館する(6.25)  
**蒋介石が国民革命軍総司令になり、北伐を開始する(7.9)**  
江ノ島電気鉄道が設立される(7.10)  
藤沢大正橋開通式(8.20)  
国賓シャム国の文部大臣ダニー親王、江島神社を訪問(10.10)  
御所見郵便局が新設される(10)  
関東貯蓄銀行が解散する(10.29)

(昭和元年)

**大正天皇崩御、昭和と改元(12.25)**

1927年(昭和2年)

社会民衆党神奈川第三区支部結成式が藤沢劇場で開催される(2.17)  
小田原急行鉄道支線、相模大野 - 藤沢間の敷設計画決定(3.9)  
**金融恐慌(3~)**  
**兵役法が公布され、徴兵令が廃止、課役期間が一年短縮される(4.1)**  
茅ヶ崎 - 藤沢間の県道開通(4)  
片瀬 - 鵜沼間の鵜沼新道が開通する(5.4)  
**国民革命軍の北伐阻止のため、関東軍に出動命令が下る(第1次山東出兵)(5.28)**  
金子町長の辞職により後任町長選挙に関する第1回協議会が開催される(6.15)  
**芥川龍之介が田端の自宅で自殺する(7.24)**  
藤沢町立病院として伝染病隔離病舎を再建する計画が実現せず、蚕業試験場をそれに転用(8.6)  
関東大震災被災地の町村償還延期運動が活発となり、金子町長、全国町村会長として活躍(9.1)  
東海道線大船 - 藤沢間の複々線化が完成する(10.1)  
小田急片瀬線鉄道敷設免許おりる(12.27)  
**上野・浅草間地下鉄が創業する(12.30)**

1928年(昭和3年)

小田急江ノ島線、工事開始(2.9)  
**普通選挙制によって初の衆議院議員選挙が行われる(2.20)**  
藤沢実科高等女学校、藤沢高等女学校と改称(3.23)  
藤沢町合併20周年祝賀式が挙行される(4.1)  
金子角之助、藤沢町長と全国町村会会長を辞任する(5)  
**奉天を引き上げる途中の張作霖を乗せた列車が、関東軍によって爆破される(張作霖爆殺事件)(6.4)**  
町長選出の町会開催、金子派が推薦した吉田八左衛門が当選する(6.25)  
**治安維持法が改正公布される(6.29)**  
江ノ島電気鉄道が東京電燈江の島線を買収し、江ノ島電気鉄道線として営業開始(7.1)  
広瀬義治が第14代小出村長に就任する(7.21)  
吉田八左衛門が町長就任を辞退する。後任町長をめぐり紛争つづく(7)  
**不戦条約が日本など15カ国によって調印される(8.27)**  
湯原直平の藤沢町長就任が決定(10.26)  
県庁の新庁舎落成(11.1)

1929年(昭和4年)

藤沢町会開会、湯原直平を新町長に選出(1.29)  
小田原急行鉄道江ノ島線が開通する。片瀬江ノ島、鵜沼海岸、本鵜沼、藤沢、藤沢本町、六会、新長後の各駅開設(4.1)  
藤沢民政倶楽部が藤沢劇場で発会式(4.7)  
藤沢町社会事業協会が設立される(6)  
片瀬海岸に海水浴場組合が誕生する(6)

## 藤沢と神奈川の動き

明治小学校建築請負をめぐる疑獄事件発覚（9）  
小田原急行鉄道、江ノ島電気鉄道と運輸協同契約認可される（9.16）  
**ニューヨークで株式市場が大暴落、世界恐慌が始まる（暗黒の木曜日）（10.24）**  
湯原藤沢町長が辞表を提出、県属木内松次が町長の職務管掌として派遣される（10.30）  
湯原藤沢町長が辞職する（11.4）

### 1930年(昭和5年)

関東銀行解散（1.7）  
藤沢町会が全員一致で隈川基を町長候補に推薦（1.21）  
隈川基が藤沢町長就任を承諾する（1.26）  
藤沢町会、隈川町長信任を決議、助役は江口喜八に決定（2.13）  
**関東大震災からの復興を祝い、帝都復興祭が挙行される（3.24）**  
失業救済対策の一部として、県土木部が湘南海岸道路（川口村片瀬龍口寺 - 中郡大磯町間）の敷設計画に着手（3）  
**ロンドン海軍軍縮条約に調印する（4.22）**  
町会で火葬場の移転敷地を西富地区に決定、県知事が火葬場の新築を許可したが、地元で反対運動が高まる（6.22）  
江の島展覧会が東京上野松坂屋で開催される（8.10）  
大船・江の島間乗合自動車開通（8.24）  
不景気のため、遊行寺の境内に失業者多数が集住していると、新聞が報道（9.3）  
火葬場建設に反対する大正村の一部住人が藤沢町役場へ乱入する（9.28）  
**浜口雄幸首相が東京駅で右翼青年に狙撃される（11.14）**  
隈川町長、火葬場建設工事に対して一週間中止の措置をとる（11.15）  
隈川町長、江口助役ら辞表を提出、翌日県属重田巖、町長職務管掌として派遣される（11.19）  
藤沢町より鵜沼の分離運動おこる（12）  
町営火葬場が完成する（12）

### 1931年(昭和6年)

隈川基、町長に再選され、就任を承諾（1.10）  
江口喜八助役の再任決定、この頃から町長支持派と民生倶楽部の対立が激化（2.25）  
町有の元県立原蚕種試験場を東京鉄道局へ寄付し、鵜沼海岸に同局の「海の家」設置を促進（5.11）  
藤沢町営火葬場が業務開始（6.1）  
鉄道省「海の家」の完成披露会（7.31）  
**羽田飛行場開港（8.25）**  
県道湘南海岸道路（片瀬 - 大磯間）起工式挙行（8.27）  
**奉天郊外の柳条湖で満鉄の線路が爆発され、関東軍はこれを口実に満州で軍事行動を開始する（満州事変）（9.18）**  
隈川町長が辞職する（9.23）  
一木與十郎、藤沢町長に当選する（10.3）  
江の島 - 鎌倉間乗合自動車開通（10.10）  
片瀬町長に岡田栄之輔就任（12）

### 1932年(昭和7年)

辻堂電信局が開業する（1.7）  
**上海で日本軍と中国軍が衝突する（第1次上海事変）（1.28）**  
**民政党の次期総裁の有力候補とされた井上準之助が血盟団員に射殺される（2.9）**  
高座郡農会がイギリスから取り寄せた優良種牝豚が横浜港に到着（2.12）  
**「満州国」建国宣言を発表（3.1）9日、溥儀が執政に就任する**  
六会村の長谷川周作村長が辞任（4.1）  
**海軍青年将校と陸軍士官候補生が首相官邸を襲い、犬養毅首相を射殺する（五・一五事件）（5.15）**  
御所見村で村費節減運動が起こる（5.20）  
藤沢カントリー倶楽部発会式（6.3）  
横山助成、県知事となる（6.28）  
**ロサンゼルスで第10回オリンピックが開催され、日本は、三段跳び、馬術、男子水泳で7個の金メダルを獲得する（7.30）**  
森林造が御所見村長に就任する（8）  
小松製作所が鵜沼に工場を設立する（10）

藤沢と神奈川の動き

大暴風雨により高座郡全域に大被害（11.14）  
 藤沢町の公益質屋、遊郭裏に開業決定（12.14）  
**日本橋の白木屋百貨店で初の高層ビル火災が発生（死者14人、重軽傷者130人）（12.16）**

1933年(昭和8年)

**ヒットラーがドイツ首相に就任し、ナチスが政権を獲得する（1.30）**  
 町営公益質屋開業（2.5）  
**プロレタリア作家の小林多喜二が検挙され、築地署で拷問により死亡する（2.20）**  
 川口村が町制を施行し、片瀬町と改称（4.1）  
 藤沢町合併25周年記念祝賀会（4.1）  
 川口久吉、第15代小出村長に就任する（5.5）  
 明治小学校で少年消防隊が組織される（5.16）  
**京都帝大の滝川幸辰教授を文部省が休職処分としたことに法学部の教員や学生が反発（滝川事件）（5.26）**  
**第1回関東防空大演習が行われ、本格的燈火管制が実施される（8.9）**  
 辻堂駅前に振興会が誕生する（9.24）  
 江の島小唄（小寺融吉作詞・中山晋平作曲）が完成する（10.1）  
 藤沢高等小学校開校式（11.14）

1934年(昭和9年)

県警察音楽隊創立（1）  
 藤沢が都市計画法の適用をうける（2.26）  
 一木藤沢町長が辞職、町長の職務管掌として県属斎藤道金が来任する（3.1）  
**満州国に帝政がしかれ、執政溥儀が皇帝に即位する（3.1）**  
 江の島で海底透視船が営業開始（4）  
 大野守衛、藤沢町長に就任する（5.7）  
 片瀬町長に林吉次郎助役が昇任する（5.30）  
**東郷平八郎海軍元帥が死去（5.30）**  
 県師範学校附属小学校で二宮尊徳銅像除幕式、このころより県下小学校で尊徳像が建立される（7.23）  
 横山文淵、藤沢町助役に就任する（7.31）  
 佐藤峰太郎が藤沢町収入役代理に就任、一年後に収入役に就任（9.1）  
 史蹟名勝天然記念物保存法第1条により、江の島が名勝及び史蹟に指定される（12.18）

1935年(昭和10年)

江の島の名勝及び史蹟の標識を建設（1）  
**退役軍人の菊池武夫議員が貴族院本会議で美濃部達吉の「天皇機関説」を国体破壊の憲法解釈と非難（2.18）25日、美濃部が反論の演説をする**  
 御所見村の森林造村長が辞職し、後任に長嶋吉次郎助役が昇任する（4.30）  
 長嶋幸治、御所見村長に就任する（5）  
 町立藤沢実業補修学校が、藤沢青年学校と改称（7.1）  
 二工・アール、鵜沼海岸で遊泳中に水死（7.17）  
 湘南海岸道路が開通する（7）  
 国道一号線と湘南海岸道路を連絡する県道辻堂線が開通する（8.24）  
 乃木希典像の落成式が開催される（9）  
 鵜沼海岸で横須賀鎮守府所属の海軍陸戦隊が上陸演習を挙行する（11.8）

1936年(昭和11年)

**陸軍皇道派青年将校約1400名が、首相・陸相官邸、内大臣私邸、警視庁、東京朝日新聞などを襲撃する（二・二六事件）（2.26）**  
 神奈川県知事に半井清就任（3.13）  
 藤沢駅創設50周年記念祝賀会が開催される（8.2）  
 住友金属工業の子会社として小松熱錬工業が設立される（）  
 湘南大橋開通と湘南道路竣工の式典挙行（10.23）  
**日独防共協定がベルリンで調印される（11.25）**  
 辻堂駅開通20周年記念祭が開催される（11）  
**国民政府の蒋介石が東北軍の張学良に監禁される（西安事件）（12.12）**

1937年(昭和12年)

## 藤沢と神奈川の動き

片瀬乃木小学校（現湘南白百合学園）設立（3.4）  
日本精工鋼球工場開場式（5.13）  
保田翁助、渋谷村村長に就任（6.5）  
大竹斎三郎が第16代小出村長に就任する（6.15）  
満州国から高座豚の大量注文を受ける（7.1）  
**蘆溝橋事件がおこる（日中の全面戦争始まる）（7.7）**  
遊行寺で国威宣揚と皇軍武運長久の祈願祭（8.1）  
**上海で海軍陸戦隊と中国軍が交戦を開始する（第二次上海事変）（8.13）**  
**閣議で国民精神総動員実施要項を決定（8.24）**  
小松熱錬工業の新向上完成（8）  
辻堂青年学校開校式（9.6）  
社会大衆党高座支部結成（9.11）  
**宮中に大本営設置（11.17）**  
日本精工、鶴沼へ移転（12.1）  
小松熱錬工業が鶴沼から辻堂に移転（12）  
**日本軍、南京を占領する（12.13）**

### 1938年(昭和13年)

自治制発布50周年・藤沢町合併30周年記念式典挙行（4.10）  
**国家総動員法が施行される（5.5）**  
大野町長、任期満了（5.8）  
大和醸造藤沢工場より引地川に有害の汚水が放流され、川魚毒死（5）  
大野守衛、藤沢町長に再任される（6.4）  
**日本オリンピック組織委員会、東京大会の返上を決定（7.1）**  
県立鶴沼プール開場、藤沢市に管理を委託される（7）  
伊沢新満、第18代小出村長に就任（12.13）  
藤沢町、片瀬町・村岡村に合併を申し入れる（12.24）  
鎌倉と藤沢で、片瀬町と腰越町を合併するための争奪戦が発生、市制施行上問題化（12）

### 1939年(昭和14年)

片瀬町、藤沢町との合併問題委員決定（1.12）  
藤沢町勢振興委員会に片瀬町当局参加（1.28）  
片瀬町が鎌倉町からの合併勧誘に対して交渉を打ち切る（2）  
藤沢町警防団、結団式挙行（4.22）  
**滿蒙国境ノモンハン付近で、満・外蒙両国軍が衝突（ノモンハン事件）（5.11）**  
日本精工藤沢旋削・研磨両工場が操業開始（6）  
鶴沼の県営プール、県より無償で払い下げられて町営となる（7.2）  
日本精工、藤沢・大崎・多摩の3工場が陸海軍の管理工場となる（7）  
小松熱錬工業、関東特殊製鋼と改称（7）  
**ドイツがポーランドに進軍し、第二次世界大戦が始まる（9.1）**  
長田只治、御所見村長に就任する（9）  
町勢振興委員会、片瀬町・村岡村の合併条件を決定。片瀬町側、合併による新市（または町）の名称を「江之島」とすることを決定（11.18）

### 1940年(昭和15年)

皇紀2600年記念事業について町会協議会が開かれ、町立図書館建設などの案提出（1.10）  
町勢振興委員会、片瀬町との合併市（町）名を「藤沢」「藤沢江の島」または「湘南」とする案を決定（1.10）  
藤沢町と片瀬町との合併問題に関する懇談会開催（1.18）  
町会全員協議会、皇紀2600年記念事業として市制施行の実現を決議（1.19）  
**衆議院本会議で、立憲民政党的齋藤隆夫が代表質問に立ち、政府の支那事変処理方針を批判したことで、党から除名される（2.2）**

村岡村と片瀬町は藤沢町との合併問題につき強調することを関係委員間で決定する（2.11）

## 藤沢と神奈川の動き

町勢振興委員会、三町村合併と同時に市制実現の方針を決定、新市名は「藤沢市」とし、合併不成立の場合は11月1日に単独市制実現の方針（3.7）

遊行寺で後醍醐天皇600年祭を開催（4.21）  
片瀬町・村岡村の委員協同で藤沢町との合併条件を申し合わせ、新市名「片瀬市」を主張する（4）  
藤沢町と片瀬町・村岡村との合併交渉不成立、片瀬町の合併委員会解散（6.28）  
片瀬町長が元老議員と懇談、合併交渉打ち切りが主流となる（6.29）  
藤沢町で、家庭用砂糖の割当配給制開始（7.5）  
町勢振興委員会、単独市制施行の方針を決定（7.5）  
鵜沼海水浴客のために、品川・藤沢間に臨時列車が増発される（7）  
町勢振興委員会、県当局のすすめにより市制施行日を10月1日に変更（8.24）  
**日独伊3国同盟、ベルリンで調印（9.27）**  
藤沢市制施行、初代市長大野守衛氏就任（藤沢町戸数6,357戸、人口32,479人）（10.1）  
**大政翼賛会発足（総裁近衛首相）（10.12）**  
第1回藤沢市体育大会挙行（11.1）  
市制施行祝賀会が藤沢第四尋常小学校校庭にて開催される（11.3）  
**紀元2600年祝賀行事を実施（11.10）**  
第1回藤沢市会議員選挙（11.25）  
最初の市議会開催（12.11）  
横浜貿易新報が神奈川県新聞と改題（12.13）

### 1941年(昭和16年)

藤沢市内外の文化人・宗教家が集まり、湘南文化連盟結成（1.22）  
市議会で初代市長に大野守衛決定（2.18）  
**国民学校令公布（3.1）**  
助役細谷力蔵、収入役平野秀樹就任（3.24）  
「藤沢市公報」創刊（4.5）  
**日ソ中立条約調印（4.13）**  
村岡村、藤沢市へ正式編入（6.1）  
藤沢市・村岡村合併祝賀式が第四国民学校講堂にて挙行される（6.8）  
大政翼賛会藤沢支部結成（支部長は大野市長）（7.1）  
高座郡渋谷村、六会村村長、横浜市への合併を希望申し入れ（7.14）  
大野市長、鈴木市議会議長ら六会・渋谷両村理事者を歴訪し、合併交渉。この前後に横浜市も両村に合併交渉（7）  
藤沢市・六会村の首脳、県地方課を訪問、合併問題に対する当局の意向を聞く（8.13）  
市民体育大会が湘南中学で挙行される（11.2）  
**日本軍、真珠湾攻撃、マレー半島上陸。「大東亜戦争」に突入（12.8）**  
横浜興信銀行、県内六銀行を合併（12.13）  
藤沢市主催戦勝祈願市民大会、第一国民学校で挙行（12.14）  
**日本軍、香港全島占領（12.25）**

### 1942年(昭和17年)

**日本軍、マニラ占領（1.2）**  
片瀬町との合併交渉委員（市議6名）決定（1.16）  
**日本軍、シンガポール占領（2.15）**  
第四国民学校においてシンガポール陥落奉告祭ならびに戦勝祝賀市民大会開催（2.18）  
**食糧管理法公布（2.21）**  
片瀬町議会全員協議会で合併交渉委員（町議8名）を選任（2.27）  
**ジャワ島の蘭印軍降伏（3.9）**  
六会村、藤沢市へ編入（3.10）  
鎌倉市と大船、深沢、片瀬三町村の委員、合併条件等について協議（3.12）  
市議会全員協議会、片瀬町側が提案の合併による新市名「藤沢江の島市」を受け入れる（3.24）  
藤沢翼賛壮年団結成（3.30）  
片瀬町議会全員協議会、藤沢市との合併を可決（3.30）  
藤沢市・六会村合併祝賀式典が藤沢高等女学校において挙行される（4.1）

## 藤沢と神奈川の動き

鎌倉市・大船町・深沢村の委員合同して「大鎌倉建設要綱」を片瀬町民に配付し、鎌倉市への合併を呼びかけたが片瀬側が反発する（4.3）

### **米軍機、日本本土初空襲（4.18）**

県当局、「藤沢江の島市」の名称に難色を示す（4）  
私鉄大統合で小田急電鉄・京急電鉄・東横電鉄が合併し、社名を東京急行電鉄に改称（5.1）  
藤沢海洋少年団結成（5.29）

### **ミッドウェー海戦で日本海軍が大敗（6.6）**

大日本婦人会藤沢支部結成（7.18）

### **ソロモン群島のガダルカナル島に米軍が上陸（8.7）**

片瀬町との合併問題で市議会全員協議会を開催（9.3）  
大野市長、病気を理由に辞職する（11）  
市議会で、金子小一郎、後任市長に決定（11.30）  
市役所市民課内に結婚相談所開設（12.1）  
金子市長、行政簡素化をめざし初の機構改革施行（12.15）

## 1943年(昭和18年)

藤沢文化協会（大政翼賛会の外郭団体）創立（1.5）

### **日本軍、ガダルカナル島から撤退（2.1）**

大日本武徳会藤沢支部結成（2.10）

### **山本五十六長官、ソロモン群島上空で戦死（4.18）**

遊行寺で敵国降伏祈願法要（5.10）  
藤沢市議会、山本五十六連合艦隊司令長官の戦死につき弔辞を決議（5.29）

### **アリューシャン列島のアッツ島で日本軍守備隊玉砕（5.29）**

市会議員常会設置（8.10）  
辻堂耕地整理組合設立（9.3）

### **イタリア、無条件降伏（9.8）**

第一海軍衣糧廠辻堂支廠設置（10.1）

### **神宮外苑競技場で文部省主催出陣学徒壮行会が挙行される（10.21）**

小塚芳太郎、藤沢市助役に就任（11.1）

### **米英中首脳による第一回カイロ会議で、日本の無条件降伏、満州・台湾等の返還、朝鮮独立などを決める（11.22）**

藤沢市出陣学徒壮行会挙行される（11.23）

## 1944年(昭和19年)

藤沢炊事挺身隊が結成される（1.26）  
藤沢高女挺身隊、日本精工の工場へ動員（2.1）  
東海乗合自動車(株)、伊勢原自動車(株)、藤沢自動車(株)が合併し、神奈川中央乗合自動車(株)となる（5）

### **マリアナ沖海戦で日本軍大敗（6.19）**

### **サイパン島の日本軍が玉砕（7.7）**

### **ビルマのミートーキーナで米中連合軍の攻撃で守備隊長以下千人が全滅（8.4）**

辻堂の海軍用地付近における海水浴禁止、鵜沼海岸の海水浴は警察の許可を得た市民に限られる（8.5）

### **小笠原諸島空襲（8.31）**

下土棚に海軍電測学校が開校（9.1）

### **連合国軍、ニューギニア西方のモロタイ島南岸より強襲上陸を開始（9.15）**

渋谷村、町制施行（10.3）

### **レイテ沖海戦で連合艦隊は壊滅（10.24）**

### **海軍新風特攻隊、レイテ沖で初めて米艦を攻撃（10.25）**

### **マリアナ基地を飛び立ったB29（111機）が東京を爆撃（11.24）**

この年、市域内に東京・横浜等の一般疎開者1,040名、疎開学童952名を受け入れる

## 1945年(昭和20年)

### **米軍、ルソン島リンガエン湾に上陸（1.9）**

### **米英ソ諸国によるヤルタ会議でソ連の対日参戦など決定（2.4）**

B29一機、御所見の山林と畑地に爆弾三個投下、被害なし（2.10）

## 藤沢と神奈川の動き

湘南地区に米軍機320機来襲する(2.17)  
横浜興信銀行(現横浜銀行)辻堂支店開設(2.21)  
関東地方に大雪、善行地区で積雪45cmを記録(2.26)  
**米のB29型重爆撃機325機が東京を襲う、死者8万人・罹災者100万人(東京大空襲)(3.10)**  
**硫黄島の日本軍守備隊2万3000人が玉砕(3.17)**  
戦災援護会藤沢市分会結成(4.1)  
**米軍が沖縄本島に上陸を開始する(4.1)**  
京浜地方来襲のB29、60機の一部、辻堂地区上空に飛来(4.2)  
**戦艦「大和」が十波108機の攻撃で68発の魚雷を受けて撃沈(4.7)**  
**ルーズベルト大統領が死去、後任にトルーマン副大統領が昇格(4.12)**  
**ヒトラー、ベルリンの地下壕で自殺(4.30)**  
**ドイツ、連合国に無条件降伏(5.7)**  
辻堂国民学校が開校(5.8)  
B29、1機、P51、40機が来襲(5.17)  
夜半に、川崎・横浜来襲のB29編隊の一部、藤沢署管内に焼夷弾360発投下、36戸が全焼、99人が罹災する(5.24)  
横浜に大空襲、その余波が藤沢市域にもあり(5.29)  
米軍機42機が渋谷町等に来襲する(6.11)  
井上政が渋谷町長となる(6.20)  
**米軍はルソン島での戦闘終了を宣言、日本軍死傷者約12万4千人(6.28)**  
陸軍第140師団、藤沢地区に駐屯(司令部は片瀬、歩兵403聯隊は辻堂、歩兵404聯隊は御所見村など)(7.1)  
艦載機315機が来襲(7.30)  
**広島市に原子爆弾が投下(8.6)**  
**長崎市に原子爆弾が投下(8.9)**  
艦載機200機が来襲(8.13)  
**天皇、正午にラジオを通じて「終戦の詔書」を放送(8.15)**  
文部次官通達により市内工場への学徒動員解除(8.16)  
県当局の発表によると、藤沢市内の空襲被害は、死者21、重傷16、軽傷23、建物全焼  
マッカーサー連合軍最高司令官が厚木飛行場に到着、長後を通過して横浜に入る(8.30)  
藤沢海軍航空隊跡に550名の米兵部隊進駐(9.2)  
**日本、米軍艦ミズーリ号上で降伏文書に調印(9.2)**  
伊沢十郎、藤沢市助役に就任(9.13)  
藤沢駐屯の陸軍第140師団が解散する(10.10)  
**治安維持法など廃止の件公布(10.15)**  
**GHQ、持株会社解体に関する覚書を出す(11.6)**  
日本精工労働組合を結成する(11.30)  
市連合町内会を結成する(12.15)  
**労働組合法が公布される(12.22)**  
全国人口調査によると藤沢市の人口は59,837人(男28,793・女31,044)

### 1946年(昭和21年)

**天皇、神格化否定の詔書(1.1)**  
**GHQが軍国主義者の公職追放を指示(1.4)**  
**民主主義科学者協会が結成される(1.12)**  
日本社会党藤沢支部結成式が藤沢劇場で挙行される(1.19)  
金子小一郎、市長辞職(3.31)  
**第22回総選挙(婦人参政権が認められた初選挙)(4.10)**  
臨時市議会で、飛嶋繁を市長候補者として推薦議決(4.24)  
飛嶋繁、市長に就任する(6.14)  
鵜洋小学校創立(8.10)  
乃木高女、湘南白百合高女と改称(9.11)  
片瀬町、藤沢・鎌倉両市に合併条件の明示を求める(10.12)  
市の主催で、新憲法公布祝賀式典と市民体育大会が開催される(11.3)

藤沢と神奈川の動き

**日本国憲法が公布される(11.3)**

鎌倉江の島観光協会発足(11.5)  
県立湘南中学校蹴球部、第一回国体決勝戦で神戸一中を破り全国優勝(11)  
この年、藤沢市体育連盟発足

**1947年(昭和22年)**

片瀬町で合併問題に関し町民投票、藤沢市への合併賛成が過半数(1.19-20)  
片瀬町、正式に藤沢市への合併を申し入れる(2.10)  
日本自由党藤沢支部結成(3.20)

**教育基本法・学校教育法各公布。六・三・三・四制を規定(3.31)**

片瀬町を市に編入合併(4.1)  
市内の国民学校は新制の小学校に切り替えられる(4.1)  
日本民主党藤沢支部結成(4.3)  
第1回市長公選、無投票で飛嶋繁が当選する(4.5)  
石井政雄、渋谷町長に当選

**第一回統一地方選挙(4.5)**

藤沢商工会議所発足(4.21)  
**日本国憲法・裁判所法・国会法・地方自治法各施行(5.3)**  
飛嶋繁市長、病気のため辞表提出(5.14)  
飛嶋繁、辞表撤回(5.19)

**片山哲内閣成立(6.1)**

**日本教職員組合(日教組)結成(6.8)**

**全日本水上選手権400メートル自由形決勝で、古橋広之進が世界新の4分38秒4で優勝(8.9)**

**1948年(昭和23年)**

飛嶋市長、辞職する。助役伊沢十郎が市長代理となる(2.23)  
市議会臨時会で市警察設置条例を議決(3.6)  
県立湘南中学校、新制高校として新発足(4.1)  
第2回市長選挙、伊沢十郎が当選する(4.18)

**イスラエル建国(5.14)**

小田急電鉄、東急電鉄から分離独立(6.1)

**作家の太宰治が入水自殺(6.13)**

市立図書館開館(7.1)  
小田急電鉄江ノ島線藤沢・本鵜沼間複線復旧(9.18)

**極東軍事裁判最終判決(11.12)**

市主催市内史跡めぐり駅伝競走開催(11.28)

**1949年(昭和24年)**

小山正光が助役に就任する(1.27)  
聖園女学院高校設立(3.5)  
片瀬、六会に市役所支所を設置。日本大学藤沢高校設立(4.1)  
小田急江ノ島線、本鵜沼・片瀬江ノ島間複線復旧(4.10)  
江ノ電バス営業開始(藤沢 - 江の島 - 鎌倉間ほか)(6.11)

**「藤沢市弘報」創刊準備号発刊(6.20)**

江ノ島電気鉄道株式会社、江ノ島鎌倉観光株式会社と改称(8.1)  
県立湘南高校が全国高校野球選手権大会で優勝(8.20)

**毛沢東主席、北京天安門広場で中華人民共和国と中央人民政府の成立を宣言(10.1)**

労働基準監督署、片瀬の元婦人会館跡に移転(10.8)  
江の島植物園が開園する(11.1)

**湯川秀樹京都大教授に対し、ノーベル物理学賞授与が発表される(11.3)**

市主催市内史跡めぐり駅伝競走大会が開催され、湘南高校チームが優勝する(12.4)

**GHQ民間情報教育局の支援のもとに、婦人民主クラブが結成される(12)**

**1950年(昭和25年)**

## 藤沢と神奈川の動き

藤沢地区法人会創立（3.10）  
従来の横浜興信銀行藤沢支店に加えて、駿河銀行藤沢支店が市金庫となる（4.1）  
**日本戦没学生記念会「わだつみ会」結成大会挙行（4.22）**  
市庁舎起工式挙行（4.29）  
**朝鮮戦争が勃発（6.25）**  
県立藤沢保健所が落成（7.13）  
市制10周年を記念し、市章・市歌・市政振興論文を市民より募集（8）  
藤沢市章（「フチサワ」を図案化したもの）廃止（9.30）  
藤沢市信用金庫設立総会開催（9）  
市制施行10周年記念式典、市歌・市章制定（10.1）  
横浜興信銀行鵜沼支店が開設される（12.16）

### 1951年(昭和26年)

藤沢市信用組合が開業する（1.5）  
市内各小学校で完全給食開始（2.15）  
横浜興信銀行辻堂支店開店（2）  
藤沢電報電話局電話交換室完成（2）  
江の島平和塔落成、江の島植物園が江ノ電の委託経営となる（3.25）  
市教育課、市美術家協会共催の第一回藤沢市展画開催される（5.16）  
市社会福祉協議会が発足する（7.1）  
辻堂海岸および周辺海域で連合軍上陸演習が実施される（7）  
**サンフランシスコで対日講和条約・日米安全保障条約調印（9.8）**  
**第12回ベネチア国際映画祭で黒沢明監督の「羅生門」がグランプリを獲得する（9.10）**  
市福祉事務所が開設される。辻堂地区に市役所支所が設置される（10.1）  
藤沢電話局が落成する（12.15）

### 1952年(昭和27年)

伊沢市長、市議会議長に辞表提出（2.15）  
第3回市長選挙、金子小一郎当選（3.9）  
**NHKラジオで菊田一夫作の連続ドラマ「君の名は」の放送が開始（4.10）**  
市主催自動車ロードレース大会が開催される（4.30）  
**第23回メーデーで、デモ隊と警官隊が乱闘になる（メーデー事件）（5.1）**  
藤沢税務相談所開設（7.1）  
観光宣伝のため、松本市で江の島の写真展を開催する（7.2）  
**弥生時代の遺跡から発掘された2000年前のハス（大賀ハス）が開花（7.18）**  
第1回市内工場対抗野球大会を開催する（8.17）  
私立藤沢高校、全日本バレーボール大会で優勝（8）  
市教育委員会委員選挙（10.5）  
市教育委員会が発足する（11.1）

### 1953年(昭和28年)

秩父宮雍仁親王が鵜沼の別邸で死去（1.4）  
第一回湘南柔道大会を開催する（2.1）  
**NHKテレビ本放送（2.1）**  
藤沢駅渡線橋が竣工（3.3）  
**ソ連のスターリン首相が死去（3.5）**  
旧海軍藤沢航空隊飛行場を東洋航空株式会社が民間飛行場として使用開始（3.11）  
重田巖、助役に就任する（3）  
藤沢信用組合が信用金庫に昇格する（6.1）  
小田急弁天橋が完成する（6.26）  
**ミスユニバース世界大会で伊東絹子が日本人初の第三位に入賞（7.16）**  
**朝鮮戦争休戦協定が調印される（7.27）**  
藤沢市総合運動場（現藤沢体育センター）が県営となる（9.16）

## 藤沢と神奈川の動き

市内電話局（藤沢・鶴沼・辻堂・片瀬）合併期成同盟会発足（10.24）  
市民体育の向上のため、市社会体育振興協議会が設置される（11.10）  
**奄美群島返還の日米協定が外務省で調印される（12.24）**  
藤沢市町村合併促進委員会設置（12.24）  
**NHKが紅白歌合戦をテレビで初の公開放送（12.31）**

### 1954年(昭和29年)

藤沢市が渋谷町に合併申し入れ（2.11）  
藤沢市が小出・御所見両村に合併申し入れ（2.12）  
**第五福竜丸がビキニ環礁北東で被曝する（3.1）**  
**改正警察法が公布、国家地方警察と自治体警察を一本化し、警察制度の中央集権化を強化する（6.8）**  
警察法改正で自治体警察廃止、神奈川県警藤沢警察署となる（7.1）  
藤沢市、国民健康保険事業を開始する（7.1）  
小田急、特別急行料金（新宿・片瀬江ノ島間）制定（7.12）  
**青函連絡船洞爺丸が台風15号下の函館港外七重浜沖で座礁・転覆、日本最大の海難事故となる（9.26）**  
鶴沼の二エ・アール氏記念碑、李徳全女史が除幕する。記念碑は新制作派会員の山口文象氏設計、ブロンズ版に秋田雨雀氏の碑文と義勇軍行進曲の譜を刻む（11.1）  
渋谷町長が抜き打ちで藤沢との合併を決議（11.30）  
御所見村議会が藤沢市との合併を議決する（12.3）  
小出村分村、遠藤地区以外は茅ヶ崎市と合併する（12.21）

### 1955年(昭和30年)

渋谷町が分町と決定、長後・高倉以外は渋谷村に（1.10）  
秩父宮記念体育館着工（1.14）  
市議会で渋谷町長後・高倉地区と、小出村遠藤地区の編入を決定（2.22）  
御所見村と、小出村・渋谷町の一部を編入し、現在の藤沢市域が確定（4.5）  
第4回市議会議員選挙執行、36名が当選する（4.30）  
市商工会議所主催による第一回「ふじまつり」を開催する（5.2）  
**第1回原水爆禁止世界大会が広島で開催される（8.6）**  
秩父宮記念体育館が開館する（10.22）  
藤沢を中心開催地として神奈川県国体が開幕（10.30）  
天皇皇后両陛下、秩父宮記念体育館を訪問（11.1）  
**自由民主党が結成され、単一保守政党が成立する（11.15）**  
郭沫若ら中国学術視察団、二エ・アール記念碑を訪問（12.3）

【参考文献】 この年表の作成にあたっては、主として次の資料を参考にいたしました。

- 『藤沢市史年表』 藤沢市文書館 1981年
- 『ニュースは語る20世紀の藤沢』（続）藤沢市史別編2 藤沢市文書館 2005年
- 『日本全史（ジャパン・クロニック）』講談社 1991年
- 『昭和史全記録』 毎日新聞社 1989年